



INPIT三重県知財総合支援窓口 支援事例レポート

重点支援 (加速的支援)

鈴鹿エンジニアリング株式会社 (四日市市)

事業診断を行ってポテンシャルを把握。重点支援で課題解決を支援

鈴鹿エンジニアリング株式会社(以下、鈴鹿エンジニアリング)は、令和7年11月に創立50周年を迎えました。ゴムの原材料の配合から混練・圧延・冷却・裁断、それらを接続するマテリアルハンドリングまで、「ゴム精練」と呼ばれるゴム素材加工の工程に必要な機器装置をワンストップで提供しています。

高い水準の「品質」「生産効率」「合理的な省人」「エネルギー効率」「安全性」「環境適合」を実現し、顧客企業独自のプロセスにもカスタム設計の機器装置で要求に応じています。

高度なワンストップサービスを実現するための中核となるのが、生産実行システム「ミキシングコントローラー」です。他社製のゴム混練機にも適用できる汎用性を備えているため、顧客企業のニーズに広く対応することができます。このように、ゴム加工専用機、搬送機器の設計・製作のみならず、ゴム精練ラインと物流装置のシステムインテグレーション・ネットワーク化、生産システムの構築、工場向け環境機器およびシステム構築などの事業を展開してきました。

スマートファクトリー化に向けた事業戦略を構築

INPIT三重県知財総合支援窓口では、事業診断によって鈴鹿エンジニアリングへのソリューション提案に関わる潜在的なポテンシャルを把握し、その強みを拡充するための支援に着手。全社的な運営システムや統合管理サ

[お問い合わせ]

ービスを展開し、より高度なゴム精練スマートファクトリーへの担い手として業界をリードしていけるように重点支援(現加速的支援)を行い、スマートファクトリー化の事業戦略構築を行いました。

鈴鹿エンジニアリングが主に取り組んだ課題は以下の5項目です。

①ビジネスモデルの策定

装置メーカーからソリューション企業へと変貌をとげるためには、ビジネスモデルを策定することが必要でした。顧客企業の新しい設備投資に伴うフロービジネス事業と、納めた装置をより良く運用していくためのストックビジネス事業という両利きの経営について具体的な整理が進み、事業計画にも反映させることができました。

②知財戦略

統合ソリューション提供ビジネスを本格的に行うにあたり、装置技術特許以外にも取得することが望ましい技術領域の存在が明らかになり、ソリューションの単位で知財保護がなされるためのシステムやデータにも配慮し、外国出願補助金の活用も含めた知財戦略・事業戦略を推進できました。

③サービスや技術のブランディング

統合ソリューションは鈴鹿エンジニアリングにとって新たなサービス市場であり、付加価値付けを通じて市場開拓をするためにブランディングが必要となりました。提供価値の検討・言語化を実施したり、理解促進や情報発信の取り組み、ホームページの在り方について検討しました。

④関連企業との契約

統合ソリューションを提供するにあたり、情報処理系のパートナー企業と連携する必要がありました。ソフト系の関連企業とのパートナーシップ契約について、抑えるべきポイントがあることを把握できました。

⑤社内体制の整備

熟練工社員のノウハウ伝承や社内体制の見直しが必要と認識し、強みであるノウハウ等の創出・維持に向け、採用・人材育成の在り方の議論が成熟しました。

こうした取り組みを進めた結果、ソリューション事業においてリニューアルするポイントを整理することができ、実行に移すフェーズに入りました。ビジネスモデルや顧客ターゲットを念頭に、ブランディング強化に着手しています。顧客獲得や関係性構築に取り組むための取り組みもINPITの専門家活用を含めて継続的に取り組んでいます。

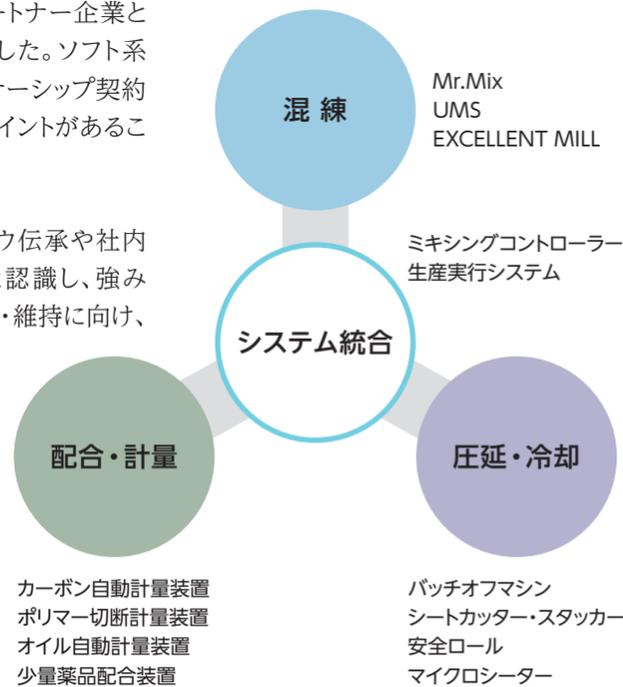
新型コロナウイルス禍の中で国際的に打撃を受けた新規設備投資需要もようやく回復基調に戻り、日本国内への生産回帰の動きも明らかになってきました。鈴鹿エンジニアリングでは、これまでのAIやロボット関連の自社開発や首都圏の大学との産学連携による技術移転の成果を生かし、顧客企業の高度自動化ニーズへのキャッチアップに取り組んでいます。

Company Profile 鈴鹿エンジニアリング株式会社

四日市市小古曾東2丁目1番65号
TEL 059-346-4774
https://www.suzuka.co.jp/

代表者 代表取締役 矢田龍生

特許 日本国内出願公開特許44件 内、
存続登録済特許10件(令和7年9月19日時点)



く回復基調に戻り、日本国内への生産回帰の動きも明らかになってきました。鈴鹿エンジニアリングでは、これまでのAIやロボット関連の自社開発や首都圏の大学との産学連携による技術移転の成果を生かし、顧客企業の高度自動化ニーズへのキャッチアップに取り組んでいます。

(支援担当者 村上一仁)



矢田龍生 代表取締役

INPIT三重県知財総合支援窓口

詳しくはHPから

みえ知財

検索

津窓口 TEL:059-253-8310 四日市窓口 TEL:059-327-5830 ご相談時間 9:00から17:00まで(土日・祝日・年末年始を除く)



技術支援課 TOPICS

[お問い合わせ] 技術支援課 TEL:059-253-1430 FAX:059-228-3800 ✉ gijutsu@miesc.or.jp

「航空宇宙産業参入促進講座」開催中

三重県産業支援センターでは、三重県雇用経済部新産業振興課より委託を受け、「航空宇宙産業参入促進講座」を令和7年8月から5回連続講座として開催しています。本講座では、航空宇宙産業への新規参入・事業拡大をめざす上で、航空宇宙産業で求められる技術や最新動向等を学んでいただけます。航空宇宙産業に関心のある方はぜひご参加ください。

令和7年12月18日(木) 13:30~15:30

航空業界進出を成功させた小企業の力

ボーイング社、エアバス社をはじめとした航空機メーカーや、100社以上のエアラインに採用された「忘れ物防止用ミラー」に関する経緯を、AS9100認証や事業場認定取得のご苦労とあわせて、ご紹介いたします。

令和8年1月16日(金) 13:30~15:30

H3ロケット用機器開発と宇宙産業の魅力

H3ロケット機器開発と量産体制の構築に関する講話を通じて、一般産業と宇宙産業の違いや、今後の宇宙産業への期待と魅力を解説していただけます。

Go-Tech事業に3件採択されました!

経済産業省の令和7年度成長型中小企業等研究開発支援事業(Go-Tech事業、旧サポイン事業)に、高洋電機株式会社「半導体製造用セラミック・石英ガラス製キーパーツの高精度・高能率加工技術の開発」、エイバック株式会社「高精度な小径・深穴加工用の超合金製コンビネーションリーマ工具の開発および製造装置の開発」、超臨界技術センター株式会社「細孔内粒子合成のための超臨界プラズマ装置の開発」の3件の提案が採択されました。採択された3件については、大学、三重県工業研究所等と協力して、3年にわたって研究開発が進められます。三重県産業支援センターは事業管理機関としてこれらの研究開発を支援します。Go-Tech事業等の研究開発補助事業にご関心のある方は技術支援課までお問い合わせください。



公益財団法人三重県産業支援センター

Mie Industry and Enterprise Support Center

〒514-0004 三重県津市栄町1丁目891番地 三重県合同ビル4階・5階
TEL 059-228-3321 FAX 059-226-4957
https://www.miesc.or.jp/ ✉ soumu@miesc.or.jp



北勢支所

〒510-0805 三重県四日市市東阿倉川788(三重県工業研究所産業研究室 施設内)
TEL 059-327-5830 FAX 059-327-5831
https://www.miesc.or.jp/support/project/8/
✉ h-miesc@miesc.or.jp